

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科) (2019.12) 令和元年度:29-30.

高齢者の学習活動における意欲-後期高齢者へのインタビューの分析-

近藤 花菜, 佐々木 彩乃

# 高齢者の学習活動における意欲

## -後期高齢者へのインタビューの分析-

近藤花菜 佐々木彩乃

(指導：藤井智子 水口和香子)

### 緒言

心身の健康を保つ一つの方法として生涯学習が挙げられる。生涯学習活動を志向している高齢者は老いに対する態度がポジティブである、また生涯学習の継続は生きがいと関係が深く、健康状態を良好に保てる傾向がある<sup>1)</sup>。近年高齢者の若返り現象がみられ、前期高齢者においては、心身の健康が保たれており活発な社会活動が可能な人が大多数を占めている<sup>2)</sup>。健康寿命延伸のための視点として後期高齢者がどのような学習活動をしているのか明らかにすることは重要である。しかし、後期高齢者の学習活動や学習意欲の根源が何かは明らかにされていない。そこで、本研究では心身の機能が低下してもなお学び続ける後期高齢者の学習活動における意欲について明らかにすることで、支援への示唆を得ることを目的とする。

### 方法

**研究対象：**シニア大学・百寿大学で学ぶ後期高齢者 3~4 名

**調査方法：**令和元年 7 月末~8 月の期間に研究者 2 名で対象者の自宅および公民館を訪問し、半構造化面接を実施した。その際、対象者の了解を得てインタビュー内容を録音した。

**調査内容：**インタビュー内容は①学習内容・頻度②学習のきっかけ③学習継続の理由④学習意欲の根源に沿って行った。

**データ分析：**録音データを逐語録にし、全体像を把握しながら熟読する。逐語録を意味のあるまとまりごとにコード化し、コードを共通点・相違点に注目して比較分析することでサブカテゴリを生成、名前を付けて概念度をあげ、カテゴリ化する。

**用語の定義：**学習活動：対象者が自由な意志で主体的に学んでいること。

**倫理的配慮：**対象者へ研究への趣旨及び本調査への参加は自由であり、調査の拒否・中断が可能であること、拒否・中断による不利益はないこと、プライバシーの保護を保障することを文章並びに口頭にて説明した。また、旭川医科大学倫理委員会の承認を得て行った。(承認番号：19035)

### 結果

#### 1. 対象者の属性(表 1)

A 市のシニア大学・百寿大学で学ぶ夫婦二人暮らしの後期高齢者 4 名であった。各 1 回ずつの面接を行い、平均面接時間は 50 分であった。

#### 2. 対象者の学習活動における意欲(表 2)

分析の結果、79 のコード、26 のサブカテゴリ、11 のカテゴリが抽出され、学習のきっかけ、継続の理由、学習意欲の根源の 3 つに分類された。

以下、カテゴリを【】、サブカテゴリを《》で示す。

表 1: 対象者の属性

対象者	属性					学習内容・頻度	
	年齢	性別	百寿大学継続年数	面接時間	世帯	百寿大学	その他
A	80代前半	女性	18年	41分	夫婦二人暮らし	講義(屯田兵について、マジック)(2回/月)	体操、麻雀、花札(会館)
B	80代後半	男性	5、6年	90分	夫婦二人暮らし	カラオケ(2~4回/月)・講義(ぬり絵と健康、陶芸)	パソコン、天気予報を毎日記録、アクリル塗り絵
C	70代後半	女性	13年	68分	夫婦二人暮らし	講義(ティッシュケースづくり)・合唱・学級交流会	新聞を読む、通院先の講義
D	70代後半	男性	13年			野外研修、部活動(パークゴルフ、切り絵、卓球)	ボランティア、切り絵(百寿大学の講師)

表 2: 対象者の学習活動における意欲

項目	カテゴリ	サブカテゴリ
きっかけ	他者からの促し	身近な人から誘われて参加
		家族の後押し
	生活スタイルが変わった	情報から興味を持った
		他者との交流が減った
		余暇ができた
継続の理由	整えられた環境がある	退職したため安く学びたい
		自由で気兼ねなくできる
		居心地の良い環境
	学習によって得られるものがある	学習の場が近くにある
		楽しませてくれる講義
		目標がある
		学習内容を活用する力が得られる
	人との関わり	役割を得られる
		継続することで楽しさが得られる
	生活が拡大する	他者から学ぶことができる
		交流を求めて
地域の関係性ができる		
根源	喜びを得たい	未知との遭遇がある
		人生が豊かになる
	未知の自分に出会いたい	夫婦で誘い合って学習できる
		好きだという気持ち
		楽しいという気持ち
老いにあらがう	新しいことを知りたいという気持ち	
人生の足跡を残したい	元気でいたい	
	呆けたくない	
	何も無い人生だったと思われたくない	

### 考察

#### 1. 後期高齢者の学習活動における意欲の実態

##### 1) 学習のきっかけ

きっかけは【他者からの促し】があった。家族や身近な人といった親密性の高い他者からの促しは学習活動開始のきっかけとなる。したがって地域住民との関係性が構築されている高齢者ほど学習活動のきっかけを得やすいと考えられる。また、【生活のスタイルが変わった】は、加齢に伴う退職から余暇ができる、他者との交流の場が減

少するという実態が背景となり、学習に繋がっていた。経済状況も変化するため費用の程度も高齢者の学習活動のきっかけとして重要な観点だと考えられる。

## 2) 学習活動継続の理由

継続の理由は【整えられた環境がある】があった。高齢になっても、自由で居心地の良い環境や近くに学習する場があることで継続に繋がると考える。【学習によって得られるものがある】では、学習をすることで新たに得られるものがあるということが継続の理由となっていた。また、「継続することで楽しさが得られる」は、「楽しませてくれる講義」と「楽しい」という共通項があり、楽しく学べるのが高齢者の学習継続において重要であると考えられる。【人との関わり】から、高齢者においては集団で学習することの意義は大きいと考える。高齢者は社会的な活動によって新しい友人を得られたことや地域に安心して生活するためのつながりができたことを良かったと感じることが明らかになっている<sup>3)</sup>。また、学習を始めるきっかけの「他者との交流が減った」という高齢者の生活背景も影響し、【人との関わり】を求めて学習活動を継続していると考えられる。また、【生活が拡大する】では、「未知との遭遇がある」、「人生が豊かになる」の2つが抽出された。人生の統合の時期にある高齢者は既知のものが多い。しかし学習を通じて歳をとっても未知のことと出会うことが出来る。生涯学習を通じて自分の人生がより豊かになっていると感じる70代は6割を超えているという調査もある<sup>3)</sup>。これらのことから人生が豊かになると感じる事が学習活動継続に繋がると考える。【配偶者の働きかけ】では、夫婦で誘い合うことにより、同じ場に出向き学ぶことが出来ていた。ゆえに、このような夫婦の相互作用も継続の一因になっていた。

## 3) 学習意欲の根源

学習意欲の根源は【喜びを得たい】が抽出され、「楽しいという気持ち」があった。継続理由にも楽しいという共通項がある。楽しいという気持ちは生涯学習の継続意思に対して有意な影響力を持つと明らかになっている<sup>4)</sup>。このことから「楽しい」は高齢者の学習においてキーとなると考える。【未知の自分に出会いたい】も「新しいことを知りたいという気持ち」があり、継続の理由の「未知との遭遇がある」との共通性がある。これらのことから、老いても知的好奇心は活発で、新しい学びを得たいという思いがあると考えられる。ゆえに、【喜びを得たい】、【未知の自分に出会いたい】という思いが根底にあることで、学習が継続されると考えられる。【老いにあらがう】では、背景として加齢とともに身体機能の低下を感じていることや、認知機能低下に対する拒否感があることが分かった。また、【人生の足跡を残したい】では「何もない人生だったと思われたくない」が抽出された。人生の最終段階における高齢者の主要な統合的テーマは人生がどんなに長くなるろうとも、個人的な意味を追求し続けることである<sup>5)</sup>。これらのことから、心身の機能低下を感じながらも、人生の意味づけを行い、足跡を残し

ていきたいという気持ちが学習意欲の根底にあると考える。

## 2. 支援の示唆

健康寿命の延伸のためには個人が健康的な生活習慣を確立することが重要であり、社会環境整備や教育面からの支援が必要である<sup>6)</sup>。本研究では、後期高齢者の学習のきっかけとして「親密性の高い人からの促し」、継続と意欲の根源において「楽しい」「集団で学ぶ環境がある」ことが分かった。また、心身機能の低下を感じながらも、人生の意味づけを行い、足跡を残していきたいという気持ちが学習意欲の根底にあると考える。このことから学習のきっかけづくりとして生活の変化のタイミングを見て勧めることや集団のキーパーソンに働きかけることが有効であると考えられる。また、高齢者の楽しく集団で学べる場の提供が支援する上で重要になるという示唆を得た。そして、学習によって各々が人生を振り返り、意味づけできるよう支援していくことが必要だと考える。

## 結論

- 1) 身近な他者からの促しや加齢に伴う生活スタイルの変容が学習を始めるきっかけになる。
- 2) 老いてなお未知のことと出会い、喜びや人生の豊かさを感じることで学習活動は継続される。
- 3) 夫婦の相互作用が学習継続の一因となる。
- 4) 老いにあらがう人生の足跡を残したいという思いが学習活動の根底にある。
- 5) 教育面からの支援として、楽しく集団で学べる場の提供が重要であるという示唆を得た。

## 研究の限界

本研究では夫婦二人暮らしの後期高齢者における学習意欲について明らかになった。今後は独居高齢者や大学に通っていない後期高齢者など、インタビューの対象者を広げ調査を行う必要があると考える。

## 謝辞

本研究の実施に当たり、お忙しい中快くご協力いただいた百寿大学の学生の皆様、地域包括支援センターに勤務する保健師様に心より感謝申し上げます。

## 引用文献・参考文献

- 1) 宮本真, 平塚克史, 町田和彦(2008): 東北地域の高齢者における生涯学習活動と心身の健康の関連. 日衛誌 (Jpn. J. Hyg), 63(2): 570.
- 2) 日本老年学会・日本老年医学会(2018): 高齢者に関する定義検討ワーキンググループ報告書. [https://www.jpngeriatricsoc.or.jp/info/topics/pdf/20170410\\_01\\_01.pdf](https://www.jpngeriatricsoc.or.jp/info/topics/pdf/20170410_01_01.pdf) (2019-5-9)
- 3) 内閣府: 高齢社会白書平成30年版. <https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/html/zenbun/index.html> (2019-5-8)
- 4) 浅野志津子(2006): 学習動機と学習の楽しさが生涯学習参加への積極性と持続性に及ぼす影響 放送大学学生の高齢者を中心に. 発達心理学研究, 第17巻 (3): 230-240.
- 5) 福富護訳(1995): 新版生涯発達心理学, 451, 川島書店.
- 6) 厚生労働省(2008): 食生活改善指導担当者テキスト. <https://www.mhlw.go.jp/bunya/shakaihoshou/iryouseido01/pdf/info03k-05.pdf> (2019-5-8)